２０２６年度大学院入試問題（２０２６年　２月１５日実施）　解答または解答例

新聞学　専攻　コミュニケーション論領域（ 博士前期/修士・博士後期・前後期共通 ）

試験科目：第　外国語　（　　）／専門科目　（　新聞学　）

試験時間：（　90　）分

1.　以下のＡ、Ｂから１つを選び答えなさい。

（Ａの解答例）

SNS のコミュニケーションは双方向性と即時性を有することから政治家の「人となり」や「本音」が伝わりやすく、政治家と有権者の心理的距離を縮め、有権者の政治参加のハードルを下げるというメリットがある。

一方で SNS の背後には透明性の低いアルゴリズムの働きが存在しており、情報の偏りや誤情報の拡散が懸念される。アルゴリズムのルールは、注目度、投稿数の多さ、つながるユーザ数、動画の評価、サムネイルなどを基にしたユーザ個別の「最適化」である。このため、冷静な議論や合理的思考は後退し、怒り・驚き・恐怖といった感情的要素が伝わりやすい。その結果、政治が好き嫌いで判断され、政策の良否よりも有権者の選好を優先する方向に流されていく危険性がある。

また、インフルエンサーを核にして「共感」に基づく同質集団が局所的に発生しやすく、熱量の高い少数派によるネット空間支配の危険性もある。民主主義の観点からすると、これらが公共性の軽視、短期的利益の優先といった好ましくない事態つながることが強く懸念される。

（Ｂの解答例）

SNS は「公共圏なき言語」と規定される。

人間の通常の対面コミュニケーションでは、表情、声質、口調、ためらいといった準言語（パラ言語）的要素が重要な役わりを果たし、発話者の意図や発話内容は語られる文脈の中で慎重に選択され解釈される。一方、SNS のコミュニケーションには準言語的要素が欠落しているため、怒り・驚き・恐怖などの強い感情を伴う断片的情報がむき出しのまま拡散される傾向がある。

またＳＮＳのコミュニケーションは不透明なアルゴリズムに規定される。アルゴリズムのルールは投稿数の多さ、つながるユーザ数、動画の評価、サムネイル、エンゲージメント率などを基にしたユーザ個別の「最適化」である。アルゴリズムは個々のユーザに何を見せるか何を見せないかを決定する「権力」であるともいえるが、これは従来のマスメディアとは異なり自動的かつ不透明なもので、国家や市民の監視を受けにくい。

SNS の世界では多数のフォロワーをもつインフルエンサーが存在する。しかしながら上記性質によりフォロワーはあくまでも「共感」に基づく同質な集団である。したがってこれまでマスメディアが行ってきたように意見・価値観・背景が異なる多様な人々を束ねて合理的議論を行うための公共圏を形成するということはできない。

2. 下記のA、Bから1問を選び、答えなさい。

A. 2025年8月の日本では、戦争の記憶をめぐるジャーナリズムが展開された。「戦後80年」という枠組みの効用あるいは限界、問題点について、時間（長／短）と空間（広／狭）の両面から具体的に論じなさい。

B. 過去の3つの万国博覧会（1851年ロンドン万国博覧会・1939年ニューヨーク万国博覧会・2025年大阪万国博覧会）における、メディア環境とそれがもたらした現象を比較メディア論として記述しなさい。

いずれも論述問題のため、「解答」そのものを挙げることは採点の幅を狭める可能性があるので、ここでは出題意図と採点基準を示しておきたい。

Aは、一般に日本で「８月ジャーナリズム」と呼ばれる戦争の記憶をめぐる報道に関する理解を問うている。時間（長／短）では八月前半（広島原爆の８月６日から玉音放送の15日まで）に集中すること、太平洋戦争以前に遡らないこと（「戦後80年」では日清戦争後130年や日露戦争後120年が意識されない）の問題性を指摘するべきである。空間（広／狭）では被爆地など戦災があった国内、あるいは玉音放送が聞けた本土に集中するため、大陸や南方に意識が及ばない。そうした点を指摘した上で、グローバルヒストリーを踏まえた終戦報道の在り方を論じていれば合格点を与えることができる。

採点基準は、以下の通り。50点満点とし

・「８月ジャーナリズム」「戦後８０年」の記述で20点。

・時間（長／短）に関する問題点に関する記述で15点。

・空間（広／狭）に関する問題点に関する記述で15点。

Bは、２０２５年の大阪万国博覧会が「デジタルメディア」を前提としたことを踏まえて、１８５１年の第一回万国博覧会が「活字メディア(新聞雑誌）」を基軸とした社会で営まれたこと、１９３９年のニューヨーク万博の基軸メディアが「映画・ラジオ」であることが正しく記述されていることが前提となる。そうしたメディア環境において、たとえば時代状況を「帝国主義時代―総力戦時代―ポスト・コロニアル時代」、あるいは社会状況を「市民社会―大衆社会―私民社会」、公共性を「文筆的公共性―放送的公共性―ネット的公共性」などと定義して、具体的な現象を論じれば合格点を与えることができる。

採点基準は、以下の通り。50点満点とし

・大阪万国博覧会のデジタル、ロンドン万博の活字、ニューヨーク万博の映画・放送に関する記述で30点。

・メディア環境を踏まえた時代状況や社会システムに関する記述で20点。

以上。

２０２６年度大学院入試問題（２０２６年　２月１５日実施）　解答または解答例

新聞学　専攻　領域（ 博士前期/修士・博士後期・前後期共通 ）

試験科目：第　外国語（　　）／ 専門科目（ 新聞学 ）

試験時間：（　　）分

3. 以下のA、Bから1問を選び答えなさい。

A. 日本におけるプラットフォーム規制に関する動向とその特色を、欧州との対比において説明しなさい。

B. 選挙報道に関して、2017年にBPO放送倫理検証委員会が求めた「質的公平」とはどのようなものか。その背景も含め説明しなさい。

いずれも論述問題のため、「解答」そのものを挙げることは採点の幅を狭める可能性があるので、ここでは出題意図と採点基準を示しておきたい。

Aは、近年のネット空間におけるSNSや動画サイト等における誹謗中傷や権利侵害情報の拡散事例の増大を踏まえて、2025年4月1日、情報流通プラットフォーム対処法（通称：情プラ法）が施行された。同法は、従来の「プロバイダ責任制限法」を発展・改正し、SNS上の誹謗中傷被害が深刻化する中、事業者の責任を明確化して迅速な被害者救済を図るもの。同法制定の目的や背景、大規模プラットフォーム事業者に求められる義務、罰則等、並びに、制定にあたり特に影響を与えたDSAの制定など、また、近年の「情報的健康」に係る議論、並びに、EUの動向に関する理解等を問うている。

採点基準は、以下の通り。50点満点とし

・「情プラ法」に関する記述で20点。
・プラットフォームの責任等に関する記述で15点。
・海外動向に関する記述で15点。

Bは、2016年の参院選、都知事選に関する報道に対する批判を受け、翌2017年BPO放送倫理検証委員会が発表した「質的公平」を求める意見についての理解を問うている。放送法が定める「政治的公平」に関する議論とその解釈、BPO放送倫理検証委員会の存在とその役割、同委員会が発表した「質的公平」の議論が、その後の選挙報道においてどのように扱われてきたのかについて、その理解等を問うている。

採点基準は、以下の通り。50点満点とし

・放送法におけるいわゆる番組準則に関する記述で15点。
・BPO放送倫理検証委員会、並びに「質的公平」を求める意見に関する記述で20点。
・「質的公平」の意見が、その後、報道現場でどのように扱われたかに関する記述で15点。

２０２６年度大学院入試問題（２０２６年　２月１５日実施）　解答または解答例

文学研究科・新聞学　　専攻　　領域（ 博士前期/修士 ・博士後期・前後期共通 ）

試験科目：第 １　外国語　（ 日本語 ）　／ 専門科目　（　　）

試験時間：（　６０　）分

■□本試験問題の第一義的な目的は、
日本語を母国語としない外国人留学生への日本語能力を確認することであるため、
以下は、解答例ではなく、解答のチェックポイントを重要度の高い観点から提示する。

① 日本語表現

●日本語の文法を使いこなせているか。

●書き言葉「だ・である」調で統一されているか。話し言葉になっていないか。

●漢字／ひらがな／カタカナ等が正確に使われているか。

●誤字・脱字、助詞および句読点の不自然な使用はないか。

② 設問内容の理解

●現在のメディア・コミニケーションの領域において「アテンションエコノミー」および「社会的な活動」という用語の正確な理解がなされているか。また二つのキーワードの関係性を思考しているかどうか。および、二つのキーワーにまつわるトピックへの興味関心、問題意識の有無を問う。

●情報過多の現代において、人々の「注意」や「関心」を希少資源と見なし、それを奪い合うことで価値を生み出す経済モデルとしての「アテンション・エコノミー」は、これまでの多様な「社会的な活動」（選挙活動、社会貢献、社会運動、activism、ムーブメントなど）のあり方にも、大きな影響を与えており、メディア・コミニケーションにおける本質的な課題をつきつけているが、そうした問題の所在を正確かつ深く把握し、具体的な事例を上げて議論を深めることができるかどうかを確認する。

③ 小論文としての表現能力：「アイデア」／「論理性」／「技術」

●「アイデア」・・扱う具体的な事象の正確な事実把握がなされているか、及びその選択妥当性の有無。
特に自分の経験を例に挙げる場合は、単なる体験談の披瀝にとどまるのではなく、
経験を理論的フレーム等により批判的分析をしつつ論述することができるかどうか。

●「論理性」・・・全体に対して「序論・本論・結論」のような文章の構造設計を行なっているか。
段落ごとに「「Point（結論）」、「Reason（理由）」、「Example（実例・具体例）」、「Point（結論）」

●「技術」・・・・文字数制限を守っているか。
内容的に段落を構成し、段落の冒頭は１字下げ、等を行っているか。

以上

２０２６年度大学院入試問題（２０２６年　２月１５日実施）　解答または解答例

新聞学　専攻　　領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第 2 外国語（　英語　）／専門科目（　　）

試験時間：（　45　）分

十六世紀、それまではただぼんやりと噂されていた中国、日本。東南アジア、インド亜大陸の大文明、あるいはさらにそれまでまったく知られていなかったメキシコのアステカ、ペルのインカなどの諸文明のヨーロッパによる「発見」は、人間存在の手の施しようのない多元性を示唆していた。これらの文明のほとんどは、ヨーロッパ、キリスト教世界、古典古代、いや実のところ人間の既知の歴史とまったく別に発展したものであった。かれらの系譜はエデンの外にあり、エデン追放以来の人間の歴史に組み込むことはできなかった。（均質で空虚な時間だけがかれらを収容できるのだった。）こうした「発見」の衝撃がどれほど大きいものだったか、それは当時の想像の政体の奇妙な地理上の位置によって計ることができる。1516 年に出たモアの『ユートピア』は、著者がアントワープで出会った船乗りで、アメリゴ・ベスプッチの 1497-98 年のアメリカ遠征に参加した男の話ということになっている。フランシス・ベーコンの『ニュー・アトランティス』（1626）は、それが太平洋に位置したという点でとりわけ新しかった。またスウィフトのすばらしきヒューイナムの島（1726）は南大西洋付近とおぼしき地図付きで出版された。（これらの舞台のもつ意味は、プラトンの共和国を、本物であれインチキであれ、地図の上に位置づけるということがどれほど想像もできないことか考えてみれば、もっとはっきりとするだろう。）これら冷やかしのユートピアはすべて実際の発見を「モデル」とし、失われたエデンとしてではなく同時代の社会として描かれている。なぜか。こう言ってもよいだろう。つまり、当然そうでなければならなかったのだ、なぜなら、これらのユートピアはすべて当時の社会に対する批評として書かれたものであり、諸発見によってすでに消滅した古代にモデルを求める必要はなくなっていったからだと。そしてユートピア主義者のあとには、啓蒙主義の先覚者たち、ヴィコ、モンテスキュー、ヴォルテール、ルソーらが続き、かれらは現下のヨーロッパの社会的、政治的制度に対する破壊的著作を著すのにますます「現実の」非ヨーロッパ世界を利用していった。こうして、ヨーロッパが多くの文明のひとつにすぎず、しかも必ずしも神に選ばれたものでもなければ最高のものでもない、と考えることが可能となっていった。

原文出典：

Benedict Anderson (first published in 1983) *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. Verso, London (Revised Edition in 2016) p 69.

ベネディクト・アンダーソン (著) 白石隆 白石さや (翻訳)　(2007 年)『想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山、122－123 頁

２０２６年度大学院入試問題（２０２６年　２月１５日実施）　解答または解答例

新聞学 専攻＿＿＿＿＿＿ 領域（ 博士前期/修士・博士後期・前後期共通 ）

試験科目：第 ２ 外国語 （　ドイツ語　） ／ 専門科目 （　　）

試験時間：（　　）分